

今月の法話

## 一、「鬼門と守護 奈良と信楽」

東大寺では十二月十六日を「良弁忌」とし、法華堂の執金剛神像の開扉が行われ、当山では信徒の皆様とともに修二会の練行衆発表に始まり、諸堂の参拝を共にいたしました。また、本年は良弁上人の一二五〇年御遠忌法要が十月に控えており、今後の法話でも取り上げてまいりたいと思います。

さて、私は奈良へは車で赴くのですが、途中に寄り道をするのを楽しみにしております。そこで今回は滋賀県にある「信楽」に立ち寄りました。みなさんは信楽と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？信楽といえはやはり「たぬき」でしょうか。かわいいですよ。しかし、なぜ今回そんな信楽に寄ることにしたのか。それには、東大寺や大仏殿の成り立ちを調べる中で何度も登場するある地名に理由があります。それが

「紫香楽」です。納豆ネバネバ平城京。と覚えている人も多いのではないのでしょうか？奈良時代は七一〇年の平城京遷都から、鳴くよウグイス（七九四年）平安京までという知識を小学校の頃に覚えた記憶があります。平城京は唐の長安、現在の西安を元に整備された都市です。

しかし、平城京と平安京の間にも遷都が行われていたこと、そしてその時期が「大仏造立の詔」に被ってくることまで知っている方は多くないのではないのでしょうか？七四〇年には平城京から現在の京都府木津川市の「恭仁宮」へと遷都しました。この際には平城京跡地に復元されている「大極殿」も移築されたといえます。また、この場所は「山城国分寺跡」ともされていますが、「国分寺造立の詔」を發布したのもこの時期に当たります。

しかし、それからたった三年。七四三年に恭仁宮が出来上がる前に「紫香楽宮」へとさらなる遷都を決めてしまいます。そして十月に「大仏造立の詔」の發布。すなわち、大仏は現在の奈良県ではなく、滋賀県に造立されることとなったのです。

大仏が東大寺にあり、そして東大寺が全国の国分寺を総括した総国分寺であったことは現在では明確な歴史的事実です。しかし、それははじめから想定されていたものではなく信楽にあったとされる「甲賀寺」がその地位にあったのです。いまではちよつと考えられませぬ。

しかし、この紫香楽宮を中心とした事業はうまくいきません。なにせ紫香楽宮は現在以上の山奥です。大仏造立の詔に「大きな山を削り仏堂を建築し」とありますが、まさに山を切り開いての大事業でありました。翌年には甲賀寺にて大仏の造立に向けた作業が始まり、十一月には大仏の骨組みとなる体骨柱を立てる儀式が行われます。

七四五年、正月元日には紫香楽宮は正式に「新京」と呼ばれ、いよいよ遷都が本格的になったと思われた。しかしこの年、紫香楽宮近辺での不審な山火事が相次ぎ、美濃国（現在の岐阜県）では大地震が頻発するなどの天災に見舞われてしまいます。このような事態を受けて新しい都を造る事業は頓挫してしまいます。遂に聖武天皇は僧侶らを初め多くの人々から都をどこにすべきか意見を求め、ついに再び平城京へと都を戻す決断を下しました。その結果として、大仏殿は現在の位置に造られることとなり、総国分寺は東大寺の役割となり紫香楽宮はその栄華を見ること無く暮を下ろします。

そもそもなぜ紫香楽に遷都をしようとしたのか。それは当時、九州で起こった藤原広嗣の乱に起因して政争を嫌ったためとも言われますが真相は不明です。また、紫香楽宮への遷都には「玄昉」の影響があるとされます。玄昉は唐に留学した僧侶で、光明皇后とも懇意であったといわれ、海龍王寺の住職に就任したり、吉備真備と共に政治的影響力も強かったと言われます。先述の乱も彼らに対する不満が原因という説もあるほどです。そんな玄昉ですが、平城京への再遷都の間もなく朝廷から外され、左遷されてしまったことから遷都の責任を取らされたのではという声もあります。左遷の翌年、玄昉は亡くなりますが、怨霊（藤原広嗣とも言われる）に捕まり空中で八つ裂きにされ、四肢が空から降り、頭は平城京まで飛んでいったというおぞましい伝承もあります。

さて、現在の東大寺にも紫香楽宮の痕跡を見ることが出来ます。その一つが「飯道神社」なのです。飯道神社（いみちじんじや）といえは、二月堂の南東にあるこぢんまりとした社で、少し階段を上った先にあります。その位置は大仏殿の鷲尾と同じ高さであるとも言われることから、大仏殿の大きさをうかがい知ることが出来るスポットでもあります。

修二会においても、遠敷神社、興成神社と並び二月堂を守護する神社として、三月一日と八日に参拝する神社であり、神名帳にも「飯道大明神（にみちのだいみようじん）」として登場します。しかし、この神社がこの位置にあることには大きな意味があると言われます。

この飯道神社の大本は紫香楽宮の北東（鬼門）に存在する「飯道神社（はんどうじんじや）」です。今回の信楽への寄り道の目的はこの飯道神社に参拝することでした。飯道神社はかつては飯道寺として修験の大拠点として栄えていましたが、明治の修験道廃止令や廢仏毀釈により現在では神社の拝殿を残すのみ。山頂には大伽藍があったことを感じさせる堂跡が多く見られます。しかし、信仰は絶えず山中には清らかな空気に満ちており、拝殿も美しく厳かで、素晴らしい行の山であることに変わりありません。山頂まで三〇四〇分ほどで、山道も整備されているため山登りに慣れていない人でもお参りすることが出来ます。

話は奈良に戻りますが、二月堂の飯道神社は大仏殿の真東に位置する場所に建てられており、それはこの場所から眺めると大仏殿の鷲尾が重なって見えることからわかります。また平城京の内裏の真東に位置することから、東大寺と同じく平城京を守護する神社であることが伺えます。紫香楽宮の鬼門守護の神をそのまま平城京にも持って来たということで、聖武天皇は紫香楽に未練があったのではないのでしょうか。

また、東大寺は平城京の鬼門に位置するという意見もあります。奈良では七三〇年には鬼門を守護するため内裏の北東に「隅寺」（現在の海龍王寺）を創建したとされます。「鬼門」の信仰は中国に始まりましたが、日本においては陰陽道の思想として扱われ、その成立は定かではありません。文献に登場するのは平安期以降です。しかし、この考え方がこの頃から宮中で注目されるようになったのはこの頃からはではないでしょうか。そして、平城京に戻った聖武天皇が大仏造立の地として「金鐘寺」を選んだことには方位も考慮したのかもしれませんが、もちろん、華嚴の教主である盧遮那の金像を造立するには、初めに華嚴を説いた場であり、良弁上人のいる金鐘寺を選んだという説や、単純に地形的に適していたという説が有力です。

このように紫香楽宮以降の整備された都の鬼門（北東）と裏鬼門（南西）には必ずといって良いほど寺社が建てられています。平安京の表鬼門には「比叡山延暦寺」、裏鬼門には「石清水八幡宮」。鎌倉の表鬼門には「住柄天神社」、裏鬼門には「江ノ島弁財天」。江戸の表鬼門は「寛永寺」、裏鬼門は「増上寺」がそれぞれ配されているとされます。

また、紫香楽自体が平城京の北東に存在するのですが、その中に不思議なお寺があります。それは「金勝寺」というお寺で、字面から先述の「金鐘寺」を連想しますよね。それもそのはずでこのお寺も良弁上人の創建とされるのです（七三三年）。そして、このお寺には二月堂というお堂が存在し、中には大きな

「軍荼利明王」が鎮座します。寺伝によれば紫香楽の鬼門守護とありますが、このお寺自体が南西の平城京に向かって建てられていることから平城京の守護ではないかと思えます。このように離れた地に鬼門除けの寺社を置く例も少なくありません。関東においては鬼門は日光の輪王寺と二荒山神社、裏鬼門は箱根神社、天門（北西）は妙義神社が鎮護しているとされそれぞれ大いに信仰を集めました。

現在でも家相を見る上で鬼門を重視いたしますが、そもそも鬼門である丑寅は季節を十二支に当てはめた際に年末年始に当たります。すなわち物事の移り変わりを示し、そこに魔が入ることを恐れたのです。大晦日に鬼を払う追儺の儀礼を行ったり、現在でも除夜の鐘を鳴らすのもその名残かもしれません。そして、季節と方位は連関しているため丑寅の方角を鬼門としたと言われます。

世が乱れる時というのは、往々にして大きな変革に伴って起こるものです。しかし、現在の世界はグローバルイズムと情報化によって毎日が変革の日々。常に鬼門にいると言っても過言ではありません。激しく変わりゆく世界のなかで、流されずにいるためには心の鬼門に仏を置くこと、すなわち堅固な信じる心（帰依の心）こそが心身の安寧と平和をもたらします。常に忘れること無く、観音様と共に祈りましょう。合掌

## 南無日月光妙法蓮華經

\*一月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（二月七日〜二月四日迄）

\*暗剣殺、五黄殺とは向方位の事で彩紙増巻や遊行など控えな方が良い方位となります。年間通してのラッキーカーラーはピンク（紫色）です。

一月のラッキーカーラー	黄	白	赤	暗剣殺	南	五黄殺	北
-------------	---	---	---	-----	---	-----	---

年間の暗剣殺は東南、五黄殺は北西。威徳神（としとくじん）は南南東（吉方位）となります。

【お知らせ】 ①二月の勉強会の日程 普賢光明寺・二月四日（土）五日（日）七日（火）午後一時より。

横須賀支部・二月十九日（日）小田原支部・二月二十六日（日）いずれも午後二時より

②俱利伽羅大龍不動明王初護摩法を一月二十二日に敬修いたします。當山は俱利伽羅大龍不動明王と執金剛神の守護護摩法です。最強の護摩法にて祈願成就の御縁起を結んでくださいませ。なお御祈願なされた護摩本は必ず法要当日までにお持ちになり、加持を受けることにより厄を落とし運氣を向上させてください。なお昨年度の御焚きあげの御札は法要当日からお預かりいたします。護摩札をお申込みされ、法要にはご欠席の場合は勉強会等一月中にはお受け取りになり良い御縁起を受けてください。

（配送を依頼された方の御札は順にお送りいたします）

③仏像彫刻教室：一月二十九日（日）二月十二日（日）

※本年も東大寺修二会の練行衆に望月大仙住職が選出されました。権処世界として参籠いたします。行中、会員の皆様の息災を祈らせていただきます。